

「スマートナビゲーションシステム研究会4 (SSAP4)」の第1回会合を開催

(一社)日本船用工業会では、スマートナビゲーションシステム研究会3 (スマナビ研3) で検討を重ねた4件のISO規格化までのフォローアップと、IT・OT・IoTの分野に関する共通課題の調査研究を行うため、標記研究会(略称:スマナビ研4)を立ち上げた。

本研究会には、スマナビ研3のメンバー56社に、新たに(株)SKウインチ、兵神機械工業(株)、海上技術安全研究所の3社・機関が加わって合計59社・機関が参加し、1月14日(木)に第1回会合をオンライン形式で開催した(50社80名が出席)。

同会合では、座長としてスマナビ研3で座長を務めた安藤英幸氏((株)MTI)及び、幹事長として新たに原裕一氏(古野電気(株))をそれぞれ選出した。また、本研究会の下に共通課題検討WG等の5つのWGを設置して活動することを承認するとともに(別紙1)、新たに選出された各WGリーダーから、WGの活動方針や目標等について説明を行った。さらに、今回から新たな試みとして、共通課題検討WGの下にSpecial Interest Group(SIG)を設け、当該WG内で出た重要な個別テーマについて調査研究を行うこととした。

スマナビ研4は、今後2年間の活動を予定しており、海事分野におけるビジネスとしてIoT、ビッグデータの活用を促進するとともに、船舶の安全運航及び船員の負担軽減、自動運航船の実現に貢献し、我が国船用工業界の国際競争力の強化及び活性化に繋げることを目指している。また、ISO規格化のフォローアップについては、引き続き(一財)日本船舶技術研究協会の協力を得ながら連携して実施するとともに、これまで前身の研究会で開発したISO規格の成果の普及促進についても、国内外問わず、積極的に行うこととしている。

本研究会への新規参加については常時募集しているため、当会ホームページをご確認の上、担当者までお問合せ頂きたい。

なお、スマナビ研3は、前身の新スマートナビゲーションシステム研究会の成果を活用し、平成30年から船内ネットワークの要件に関する改定(ISO16425)、船内サーバーの実用化仕様のための改定(ISO19847)、船上機器及び機器用データ標準に関する改定(ISO19848)、船陸間データ共有の安定化及び最適化を目指した規格策定(ISO23807(新規策定中))の4件について規格化に向けた検討を進め、国際標準化機構(ISO)でのNP投票を無事終えたところで、昨年9月末に活動期限を向かえた。

連絡先:一般社団法人 日本船用工業会 技術部

TEL 03-3502-2041 FAX 03-3591-2206

担当者 文屋(ぶんや)・三田村 E-mail:mitamura@jsmea.or.jp

# スマナビ研4 組織体制

(活動期間 2年間：2021年1月1日～2022年12月31日)

